

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇PVC-NEWS No.121 号発行

塩化ビニル環境対策協議会

■ [随想](#)

◇自然に親しむ（その3）～自然との共生と巨人伝説～

内田 陽一（元 塩ビ工業・環境協会）

■ [トピックス](#)

◇PVC-NEWS No.121 号発行

塩化ビニル環境対策協議会

塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は、[PVC NEWS No.121 号](#)を発行しました。隔年で開催している【PVC アワード】をテーマとして、受賞作品の製造企業を取材しました。以下、特集、インフォメーションの順に紹介します。

特集① 施工性と耐久性を両立、大型建物用大容量雨とい「超芯 V-MAX」
(積水化学工業株式会社)

準大賞を受賞した大型雨樋の超芯 V-MAX、今までは金属製でしか作れなかった大型の雨樋を超延伸シートと塩ビ樹脂の三層構造で製造しています。芯材のポリエステルシートを塩ビで挟み込むことで塩ビの伸縮する性質を補い寒暖差に強く、耐候性、耐久性・耐衝撃性に優れた製品になったとのこと。その高い加工技術が評価され審査では大賞に選出されました。



大型建物用大容量雨とい「超芯 V-MAX」

■ [特集②](#)

- ・ [芯が見えるボール「hinomarc.構想 10 年以上、完成までの道のり](#) (A to KA)
- ・ [画期的なアイデアを支えた空ビ製作のノウハウ](#) (有限会社 高木商店)

芯が見えるボール「hinomarc.（ヒノマール）」は AtoKA（アトカ）が企画し、(有)高木商店の技術的バックアップの下に開発されました。透明なボールの中心球（重心）が見え、ボールの芯と軸を捉えながら効率的に球技の練習ができる製品です。ボールの芯を

捉えることは、サッカーやバレーボールなど、あらゆる球技の上達において重要な要素。回転のかけ方や球の進路をカーブさせる仕組みが理解しやすくなります。ヒノマールの製品化は、(有)高木商店の競技用ビーチボール製造などの長年の技術と経験を基礎とし、A to KA のアイデアと情熱で実現しました。日本のものづくりを支える熟練した職人の技があるからこそ、今までにない画期的なボールが誕生しました。審査では、発想の斬新さと、難しい加工を克服した点が高く評価されて優秀賞を受賞しました。



芯が見えるボール「ヒノマール」

特集③ 長年の業界課題を解決！シート同士が密着しない「サラリアシリーズ」 (アキレス株式会社)

「サラリアシリーズ」は、透明軟質塩ビフィルム。重ねてもシート同士が密着しないのが特徴です。従来、透明の塩ビシートの加工においては粉を振ってシート同士を密着させないための対策が必須でした。粉によって塩ビ本来の透明性が失われることや製品中に残って製品価値を低下させるなどの問題があり、長年にわたって関係者を悩ませてきました。アキレス（株）はあえてこの課題に取り組み、シート表面に凹凸を形成することでシート同士が密着しない製品「サラリアシリーズ」を開発しました。審査では、シート表面に凹凸を形成する発想に加えて、実現を可能にした高い配合・加工技術、安定した生産力が評価されました。



シート同士が密着しない「サラリアシリーズ」

インフォメーション①

産学連携プロジェクト、上田学園生が塩ビ製レインブーツをデザイン

(学校法人 上田学園 上田安子服飾専門学校)

服飾専門学校の上田安子服飾専門学校と森川ゴム工業所がコラボレーションした企画です。森川ゴム工業所の代表製品であるレインブーツを、学生がデザインしたコラボ作品が「第152回上田学園コレクション2024」で発表されました。今回、作品の制作に取り組んだのは、ファッションクラフトデザインコース 20名の学生たち。普段はシューズやバッグ、ファッション雑貨に必要な知識、技術を基礎から習得し、時代をとらえた商品企



上田学園コレクションで展示されたレインブーツ

画、デザイン、作品製作ができるクリエイターを目指して、日々作品づくりに励んでいます。

学生たちからは塩ビ製レインブーツならではの光沢や触感を活かした十人十色の様々な作品が生まれました。透明度の高い塩ビ樹脂からスモーギーグラスを連想したカラフルな作品やレインブーツの丈の長さを生かして地層を模したデザインなど、学生が作品に込めた様々なアイデアが見られました。

インフォメーション②

熟練した技術でジャパン・クオリティの塩ビ製ポーチを届ける

(有限会社 シンコウクラフト)

文具や化粧品の収納に便利な、透明ポーチなどの溶着で多用されている高周波ウェルダ加工。水漏れや破れに強く、美しく仕上がるのが特徴で、塩ビ製品の普及に貢献してきた代表的な加工技術です。今回は、ポーチ類などの高周波ウェルダ加工に長年携わってきた(有)シンコウクラフトを取材しました。

(有)シンコウクラフトは、創業56年の高周波ウェルダ加工のプロフェッショナルです。塩ビ製おもちゃのブームや石油ショックなどによる需要と時代の流れに沿いながら、丁寧で高品質なものづくりを続けてきました。

これまで二万件以上の製作実績を重ね最近の主力製品はキャラクターをプリントしたファンシーグッズで、ポーチ類の製作を中心にしています。作業場では、熟練した職人が、塩ビ生地張り感を活かした、立体的で美しい製品を一点一点手作業で仕上げています。



立体的なポーチ



丸型やスクエア型のポーチ

PVC NEWSのご講読(無料)を希望される方は、下記メールアドレスまで、送付先・電話番号・希望部数をご連絡下さい。よろしくお願ひします。

info@vec.gr.jp

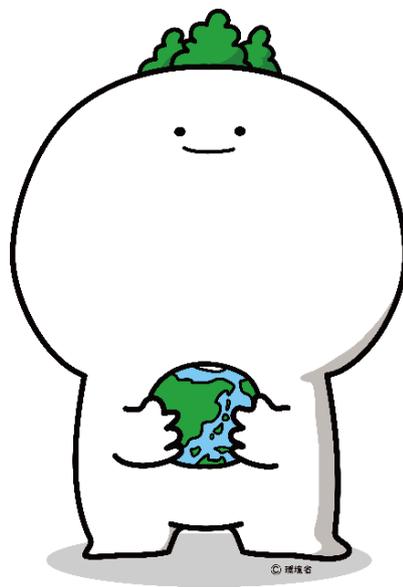
■ 随想

◇自然に親しむ（その3）～自然との共生と巨人伝説～

内田 陽一（元 塩ビ工業・環境協会）

2023年10月13日、環境省は「ネイチャーポジティブ（生物多様性の損失を止め、反転させること）」のイメージキャラクターを制定し、その愛称を「だいだらぼっち」にしたことを公表しました。なかなかおもしろいネーミングだと思いましたので、由来となった「だいだらぼっち」（地域によっては、でいだらぼっちなど様々な呼び方がある）に関連してお話をしたいと思います。

「だいだらぼっち」に関しては全国的に様々な伝承があり、きっと読者の皆様も一度は耳にされたことがあるかと思います。例えば琵琶湖の掘った土で富士山をつくった巨人の話など、山や湖沼をつくったという伝承が多く、元々は国づくりの神に対する巨人信仰がダイダラボッチ伝承を生んだと考えられています。



イメージキャラクター「だいだらぼっち」

私が幼少だった頃、いたずらや悪いことをすると「だいだらぼっち」という大きな妖怪がやってくる話を祖母や母からよく聞かされ諷められたものでした。その話の内容はほとんど記憶がなくなってしまいましたが「だいだらぼっち」の名前だけは印象強く残っていました。そして時間がたち、1997年に公開された映画「もののけ姫」を初めて鑑賞したときのことでした。時代背景となった鉄をつくるたたら場で、森（シシ神やもののけたち）と人（村人や領主など、たたらに関わる利害関係者）との戦いの場面の中で、森に居るシシ神が突然得体の知れない巨人の姿に変身して現れました。それが「だいだらぼっち」だと分かった瞬間、懐かしさと共に、昔聞いていた話のイメージが重なって深い感動を覚えた思い出があります。この映画は、たたら製鉄を巡って自然が破壊される有様が描かれていますが、森と人が共存し豊かな自然を守るには何が大切かを問いかけている物語だと思いました。

たたら製鉄は、良質な砂鉄（磁鉄鉱）が採掘された出雲地方（島根県）を中心に古代より明治時代まで行われ、砂鉄をたたら炉で精錬し鉄をつくっていました。砂鉄は、砂鉄を多量に含んだ花崗岩質の山を崩して、大量の水を使って鉄穴（かんな）流しと呼ばれる方法で採取されていました。かんな流しは山の斜面に設置した水路に採掘した花崗岩を流し、比重の小さい鉱物は流され、比重の大きい砂鉄は水路の途中の池に沈殿する仕組みです。

かつて、かなな流しによって大量の土砂が川に流され、下流地域の川床が高くなり洪水の恐れがありました。この地方を流れる斐伊川はかなな流しの影響で川の水が赤く濁ったり、度重なる洪水や川の氾濫によって下流域の平地が大きく変化したりしました。因みに、こうした背景をもとに出雲神話で有名なヤマタノオロチ伝説が生まれたと言われています（諸説あり）。

また、たたら製鉄では砂鉄とほぼ同量の木炭を必要とします。この地域では木炭の材料となるナラ、クヌギ、カシなどの広葉樹に恵まれていたので炭焼きも盛んに行われていましたが、木材の伐採により森林の減少も自然破壊につながる恐れがありました。

このような環境の下でたたら製鉄と共に生きた先人たちは自然と共生するため、山林資源は無秩序な伐採をせず、たたら製鉄が持続的に操業できるよう区画を決めて定期的に伐採する輪伐を行って山林を管理しながら保全に努めてきました。また、かなな流しで崩れた土地は稲作用の棚田として再生し活用されています。当時の田畑は花崗岩が風化してできたやせた土壌でしたが、運搬や耕作に利用していた役牛を畜産化し、得られた牛ふんを有機肥料（たい肥）にして施用するなど土地改良が進められました。こうして豊かな土壌と水に恵まれて生産されたお米は、今では代表的なおいしいお米として東の魚沼コシヒカリ（新潟県）、西の「仁多米（にたまい）」と呼ばれ広く知られるようになりました。



かなな流しの跡地につくられた棚田（大原新田）

資料提供：島根県奥出雲町

今回は自然と人が共存するために環境に配慮した活動の大切さに触れましたが、これからは生物多様性の保全活動が推進されて、将来いろんな所で新しい「だいだらポジー」伝説が生まれていることを期待しています。

（つづく）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <https://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp
